

すすんで やさしく こんきよく ~みんなでつくろう! たのしい学校~

## 楽しく学び、みんなでのびゆく2学期に!

## 楽しかったね! つだっ子まつり

緊急事態宣言が延長され、コロナ感染が日増しに拡大する中で、2学期のスタートとなりました。引きつづき、「手洗い」「マスク」「換気」「ソーシャルディスタンス」など、基本的な感染防止対策の徹底をはかり、子どもたちにとって学校が安全、安心な場所となるべく懸命に取り組んでまいります。五年生の臨海学校や運動会、六年生の修学旅行など、2学期に予定されている各行事については、今後の状況によって変更が生じることも考えられます。しかしどんな状況になろうとも、学校が子どもたちにとって楽しい場所となることを一番の目標にかかげ、だれ一人として置いていくことなく、子どもたちの笑顔をできるかぎりたくさん引き出し、みんなでのびゆける2学期となるよう、教職員全員で、ていねいに子どもたちに関わってまいります。保護者、地域のみなさまには、たいへん困難な状況がつづいていますが、みんなでしっかりと手を結んで、子どもたちをあたためた環境の中で、大切に育んでいきたいと考えます。

どうぞ今後とも、率直なご意見とともに、ご支援・ご協力をお願いいたします。



二年ぶりに開催されたつだっ子まつり「7月17日」。PTAのみなさんが思いを込めて準備してくださいました。残念ながら福祉委員会をはじめ地域のみなさんには参加いただけませんでしたが、子どもたちは大喜び。みんな楽しんで時間をすごすことができました。

### 【学校教育目標】

#### ①すすんで

- ・考えて行動しよう。  
(勉強、あいさつ、そうじ・整とん、話を聞くこと)

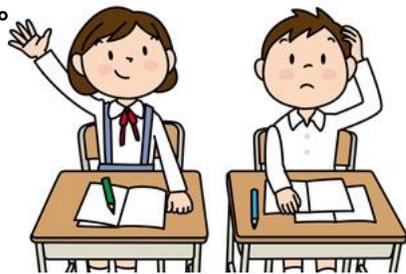


#### ②やさしく

- ・なかよくしよう。たすけ合おう。

#### ③こんきよく

- ・最後までやりぬこう。



そして

### 「みんなで作ろう! たのしい学校」



中庭のひまわり

稲穂が出た五年生の田んぼ

日	曜	8・9月 行事予定
8/26	木	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
27	金	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
30	月	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
31	火	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
9/1	水	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
2	木	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
3	金	通常授業スタート 児童委員会 諸費振替
8	水	学校水泳1年 つだっ子タイム
10	金	クラブ
14	火	4年人権教室 5年モアレ検査
16	木	ひまわり号
17	金	5年臨海学校 (延期の可能性あり)
18	土	5年臨海学校 (延期の可能性あり)
21	火	学校水泳2年 5年代休
24	金	クラブ
30	木	なかよし運動会

《2学期のおもな行事》

10月 3日 (日)	運動会 (午前中で終了)
10月 4日 (月)	運動会代休
10月 5日 (火)	運動会予備日
※通常授業の場合でも、全学年 13:45 下校	
10月 15日 (金)	音楽鑑賞会
※保護者の方もどうぞご参加ください。	
10月 17日 (日)	6年修学旅行
10月 18日 (月)	6年修学旅行
10月 19日 (火)	6年修学旅行代休
10月 22日 (金)	秋の遠足
11月 5日 (金)	学習発表会 給食試食会
12月 17日 (金)	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
12月 20日 (月)	個人懇談会 13:05 下校
12月 21日 (火)	個人懇談会 13:05 下校
12月 22日 (水)	個人懇談会 13:05 下校
12月 23日 (木)	短縮授業 (給食あり) 13:35 下校
12月 24日 (金)	2学期終業式 11:20 下校
1月 11日 (火)	3学期始業式 11:20 下校
※この予定は、今後の状況により変更される可能性があります。詳しくは毎月の学校だより、学級通信等で確認ください。	

## みんなが平和を祈りました。



子どもたちのメッセージで作られた平和の樹



黙とうする子どもたち

八月六日は平和登校日でした。終戦から七十六年目をむかえるヒロシマ平和祈念式典のよすをテレビでみたあと、みんなが黙とうしました。みんなが平和について深く考えた一日でした。

## コロナと子どもたちの成長

校長 坂本 幸仁

緊急事態宣言が延長され、過去最多の感染者数が日々更新される中での2学期のスタートとなりました。

子どもたちはここまで、しっかりと手を洗い、マスクを付けて授業を受け続け、給食のときは前を向いて話もせず食べるなど、決まりを真面目に守ってきました。また、楽しみにしていた行事が中止になったり内容が縮小されたりしても、懸命にがんばってきました。ずっとガマンし続けてきた子どもたちに、さらにガマンを強いなければいけない状況が続くことに、仕方がないとはいえ、何ともいえない気持ちになってしまいます。

子どもたちにとっての1年は大人の1年とは違います。はるかにかけがえがないものであり、その後の人生を左右することがあるほど大事なものだと思っています。家庭の状況の変化、友だちとの関わりや学校行事などが制限されることで、子どもたちがどのような影響を心身に受けているのか、私たち大人の目配りが欠かせません。

ある大学の先生の調査によると、コロナ禍で何らかのストレスを抱えている子どもは全体の約9割にのぼり、親の心身の状況が影響を与えているという結果が出ています。「すぐに腹が立つ。」「ひとりぼっちだと感じる。」などのストレスを、コロナのせいで強く感じた子どもは全体の34%ですが、親が精神的に不安定な家庭では68%に倍増したとのことです。想像以上に、子どもは親の顔色を見ていることがわかります。

また、学校が人間形成の場であることを考えると、勉強だけではなく、運動会や遠足などの学校行事、学級活動や児童会活動、クラブ活動などの特別活動も大切なことはいまでもありません。特別活動は、子どもたちが一つの目標に向かってともに努力し、達成の喜びを分かち合う貴重な体験をさせてくれます。それは子どもたちの自信につながるとともに、互いの意見を尊重する姿勢を養います。コロナ下で、子どもたちの体験の機会が制限され、協力して問題解決にあたる経験が充分ではなかったことで、社会性がしっかりと身につけられるか心配されるところです。

さらには、各家庭の経済的な格差が以前に比べて広がっているという調査があります。このことは当然子どもたちにも何らかの影響を与えているはずです。私たちは、子どもたちの家庭の状況がどんな状況であろうと、一人ひとりの将来の幸せの実現に向けて、どの子も置きざりすることなく、小学校で学ぶべきことがしっかりと身につくよう、引き続き地道に取り組んでいかねばなりません。

学校現場は、一斉休校からここまでの1年半、感染から子どもたちを守ること、学習内容に遅れが生じないように進めること、ICTの導入などに懸命だったように感じます。しかし、ここから先も同じであってはならないと考えます。子どもたちの安全、安心に十分配慮したうえで、どうしたら子どもたちの成長を支えていけるのか。感染の収束が全く見えない中ですが、みんなで知恵を出し合って進んでいきたいと思うのです。